日本をつなぐフリーマガジン「志縁」

志縁 PROJECT 震災復興フリーマガジン制作

PROJECT MEMBER

城塚 真衣 (Jonotsuka Mai)
鴨田 大 (Kamoda Masaru)
狩野 雄亮 (Karino Yusuke)
三宅 匠 (Miyake Takumi)
伴海 大介 (Bankai Daisuke)

メンバーの声

何か読者にとって考える場所になれたら

参加した理由は２点。"モノを伝える事と震災の影響"について知りたかった。この活動を通して、東北の震災関連に関しての取材という形で多くの方とお話をすることができた。取材が一番難しく、どこの切り口からの質問が相手が話しやすく、質問の意図を最も伝えやすいか、など取材の仕方や意図の伝え方等、非常に勉強になった。地震大国である日本で起きた過去最大の地震から派生した被害もどこか被災地以外が他人行儀な感じがする。過去から学び、未来に活かす。被災地の声や支援者のありのままの声を伝えているこの「志縁」が読者にとっての日本の未来を考えるきっかけになればと願っています。

狩野 雄亮

『ハチドリのひとしずく』

「何ができるか」―― 人一倍正義感が強く、何か助力できないかと思い続け、早３年。狩野に紹介してもらい"これしかない"と参加を決めた。直接的な支援ではない、正しいかも分からない、でもなにか…。冊子を作成するにあたって取材を行ったが、アポの取り方、取材の進め方、質問の進め方等学ぶことができ、色々な人から様々な話を聞けた事が有益だった。京都の企業で復興に携わっているところを探したが中々見当たらず。震災復興に関わっている志の高い学生が入社したいと思うきっかけにもなると思う。会議等においてその場に必要なポジションを取ることができるということを、肥後さんの指摘により知ることができた。ここで止めない。後世に伝え、風化させない。

三宅匠

思い考え行動に

参加した理由は震災が起きてから持ち続けていた「何かしたい」という思いから。しかし何をすれば、どう動けばよいかわからないまま約三年が経った。そんな時今回の話に出会い、「参加」という一択だった。参加してからは取材に同行させて頂いたり、取材のアポを実際に取らせて頂いたりと、「普段では出来ない経験をした」といった面でも今回の参加は有益だった。実際に東北に行って感じたことは、抽象的だが「行ってみないとわからない事、感じられない事」がこんなにもあるということ。今回の冊子が震災の記憶の風化を防ぐと共に多くの人々が東北に足を運ぶきっかけとなってほしい。

伴海 大介

思い立ったらすぐ行動！

「被災者の方の生の声を聞きたい」「そして今どんな震災支援がされているのか知りたい」ー参加した理由はこの二点だった。しかし、私はこの目的が十分に達成できなかった。最大の後悔は被災地へ行けなかったこと。そんな中、二つ目の目的のためにいろいろ調べたが、なかなか取組をする企業が見つからず、最終的にやっと京都生協さんの取材にたどり着いた。多くの人々に信頼され、心強い存在となり続けている彼らから本当の支援とは何かを学べた。きっかけは何でもいい。自分が一歩進み出よう。震災国の日本で生きる私たちが防災意識を学ぶきっかけにもなる。この志縁（しえん）が一人でも多くの人の心にもう一度震災について問いかけ、行動に移すきっかけになる一冊になればいいと思う。

城塚 真衣

企画

取材

制作

発行

活動風景

志縁とは？

「日本をつなぐフリーマガジン 志縁」は、
東日本大震災を契機に創刊した無料冊子です。

震災から 1 年後の 2012 年 3 月 11 日に創刊。
被災地での現地取材や原発についての記事を中心に無料冊子を制作し、全国へ届けている。
発行部数　全国 10,000 部発行（2013 年 8 月現在）
設置箇所　全国１５０ヵ所以上

「志縁」の３つの理念
一．被災地の情報を伝えることで震災の風化を防ぎ、支援したい方とされたい方を繋げること。
二．災害国である日本において、防災の意識を促すこと。
三．震災からの復興を通じ、日本の将来を考えること。